

8日 月曜

マタイ

11:20 それから、イエスは、数々の力あるわざの行なわれた町々が悔い改めなかつたので、責め始められた。

11:21 「ああコラジン。ああペツサイダ。おまえたちのうちで行なわれた力あるわざが、もしもツロとシドンで行なわれたのだったら、彼らはどうの昔に荒布をまとい、灰をかぶつて悔い改めていたことだろう。

11:22 しかし、そのツロとシドンのほうが、おまえたちに言うが、さばきの日には、まだおまえたちよりは罰が軽いのだ。

11:23 カペナウム。どうしておまえが天に上げられることがありえよう。ハデスに落とされるのだ。おまえの中でなされた力あるわざが、もしもソドムでなされたのだったら、ソドムはきょうまで残っていたことだろう。

11:24 しかし、そのソドムの地のほうが、おまえたちに言うが、さばきの日には、まだおまえよりは罰が軽いのだ。」

11:25 そのとき、イエスはこう言われた。
「天地の主であられる父よ。あなたをほめたたえます。これらのことを、賢い者や知恵のある者には隠して、幼子たちに現わしてくださいました。

11:26 そうです、父よ。これがみこころにかなつたことでした。

11:27 すべてのものが、わたしの父から、わたしに渡されています。それで、父のほかには、子を知る者がなく、子と、子が父を知らせようと心に定めた人のほかは、だれも父を知る者はありません。

11:28 すべて、疲れた人、重荷を負っている人は、わたしのところに来なさい。わたしが



Bible Reference
聖書の記述

あなたがたを休ませてあげます。

11:29 わたしは心優しく、へりくだっているから、あなたがたもわたしのくびきを負つて、わたしから学びなさい。そうすればたましいに安らぎが来ます。

11:30 わたしのくびきは負いややすく、わたしの荷は軽いからです。」

コラジン、ペツザイダ、カペナウムの人々が悔い改めもなく信仰もないでの、それをイエス様は責められました。ツロ、シドン、ソドムも罪の町でしたが、直接イエス様のみわざを見たのではないし、教えを聞いたわけではありません。

見ていながら、知っていながら信じないのは、やはり責められるのです。私たちも、”分かっている、知っている”だけで終わらせないで、信じて従うものとなりましょう。

その点、「幼子」のような心の持ち主は、主に喜ばれます。どういう人かといいますと、それは自分の弱さを取り繕わない人です。また自分を立派に見せるよりも、頼る人であって、正しい生き方は神様に頼るということです。

ですから幼子のように、「疲れている」「重荷を負っている」と正直に認めて、イエス様のもとにいきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

